



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術		目標	チェック
1～8	1. 播種量（うす播き励行） 2. 育苗日数（健苗育成） 3. 植付本数（細植え励行） 4. 栽植密度（優良茎確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植え防止） 7. 中干し・溝切り（遅発分げつ抑制） 8. 除草・防除（畦畔等除草・カメムシ防除徹底）		
9	水管理（飽水管理の徹底）	・ 中干し後から出穂までの約1か月（コシヒカリ）の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理	
10	刈取時期（適期刈取りの励行）	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り	

栽培履歴簿と自己点検（GAP）シートを記帳し、最寄りの支店へ必ず提出してください。

今月のポイント1 適期刈り取りに努めましょう。

＜コシヒカリの刈取適期＞

予想刈取適期

8月27日～8月31日

籾黄化率 80～85%
籾水分 25%

登熟積算気温（高温年）980℃
（登熟積算気温：出穂してからの日平均気温の合計）

※刈り取り時には必ず黄化率を
確認して適期に収穫しましょう。

・籾黄化率80%から刈り始めましょう。
・遅刈りは胴割粒発生の原因となります。



JAの営農の手引きの裏表紙を参考にしてください。

今月のポイント2 乾燥・調製は適正に行い、乾燥ミスによる胴割粒の発生を無くそう。
⇒営農の手引き41ページも参照ください。

＜乾燥作業の注意点＞

- ① 品種が変わるごとに、コンバイン、乾燥・調製施設の清掃をしっかりと行う。（異品種混入防止）
- ② 水分計（乾燥機の自動水分計も含む）は事前に調整・点検を行う。
- ③ **収穫した生籾を長時間放置せず、直ちに乾燥機に入れる。（ヤケ米防止）**
- ④ はり込み後1～2時間の送風を行い、生籾の水分を均一化し、引き続き本乾燥を行う。（胴割粒防止）
- ⑤ **急激な乾燥や高温乾燥は行わない。（胴割粒防止）**
- ⑥ 水分過多・過乾燥に注意し、水分は14.5～15.0%目標に仕上げる。

＜籾摺り・選別・計量＞

- ① JAに出荷される場合は、**皆掛け重量 紙袋(30.5kg以上) フレコン(1,092kg以上)の量目不足にならないよう注意する。**
 - ・近年、皆掛け重量の量目不足のものが見受けられますので、注意してください。
 - ・自動計量器の点検を必ず行ってください。
- ② 肌ズレ米の防止に努める。
 - ・籾摺り機のロールの間隔調整は適正に行ってください。
 - ・乾燥後一昼夜置いて穀温が常温に戻ってから籾摺りを開始します。
- ③ 整粒歩合80%以上にするため、適正網目を使用する。
 - ・未熟粒を除くため、**ライスグレーダーの網目はL～LLサイズ(1.85～1.90mm)**を使用してください。
 - ・適正な流量で選別してください。

裏面に続きます

栽培履歴簿と自己点検（GAP）シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。

各施設のコシヒカリの荷受けは、8月27日（木）より開始します。

刈取後、早めの秋起こしで次年度のガス沸きをなくそう。

クサネムは、刈取前に抜き取ってください。